

## 第2章 解析・評価と課題の整理



## 第2章 解析・評価と課題の整理



### 2-1 前回計画からの検証

#### 1. 人口

前回計画策定時の平成20年の人口は36,750人、令和2年の人口は37,297人で、平成20年に比べ547人増加しています。

#### 2. 緑の現況量

現況の一人当りの都市公園面積は3.9㎡で、国：9.9㎡、県：7.8㎡（平成30年3月末）と比較して少ないといえます。また、前回計画策定時の目標量では、街区公園を6ヶ所新設して18ヶ所、近隣公園を4ヶ所新設して5ヶ所、地区公園1ヶ所の未整備部分を新設し、都市公園の一人当りの面積を3.8㎡/人から7.8㎡/人に引き上げることを目指していました。

（参考）国が示す目標値：都市公園等 20㎡/人、都市公園 10㎡/人

#### ■施設緑地の整備目標（都市計画区域）

種 別	前回現況量 (平成20年)		見直し現況量 現況(令和2年)		前回策定時目標量 目標年次(平成32年)		
	ヶ所	面積(ha)	ヶ所	面積(ha)	ヶ所	面積(ha)	
住区 基幹 公園	街区公園	12	2.42	14	2.96	18	3.96
	近隣公園	1	1.60	1	1.60	5	9.60
	地区公園	1	5.05	1	5.05	1	10.90
都市緑地	2	4.90	2	4.86	2	5.30	
緑道	—	—	—	—	—	—	
<b>都市公園計</b>	<b>16</b>	<b>13.97</b>	<b>18</b>	<b>14.47</b>	<b>26</b>	<b>29.76</b>	
公共施設緑地	44	15.38	41	17.28	44	15.38	
<b>都市公園等合計</b>	<b>60</b>	<b>29.35</b>	<b>59</b>	<b>31.75</b>	<b>70</b>	<b>45.14</b>	
民間施設緑地	27	9.62	26	8.83	27	9.62	
<b>施設緑地計</b>	<b>87</b>	<b>38.97</b>	<b>85</b>	<b>40.58</b>	<b>97</b>	<b>54.76</b>	
緑地保全地区	—	—	—	—	7	2.52	
その他法によるもの	2	222.22	—	222.16	2	222.22	
条例等によるもの	1	31.37	—	31.37	1	31.37	
小計	3	253.59	—	253.53	10	256.11	
地域制緑地の重複	—	—	—	—	—	—	
<b>地域制緑地計</b>	<b>3</b>	<b>253.59</b>	<b>—</b>	<b>253.53</b>	<b>10</b>	<b>256.11</b>	
施設・地域制緑地の重複	—	2.96	—	4.61	—	2.96	
<b>緑地総計</b>	<b>90</b>	<b>289.60</b>	<b>85</b>	<b>289.50</b>	<b>107</b>	<b>307.91</b>	
人 口	36,750		37,297		38,000		
1人当り	都市公園 3.8		都市公園 3.9		都市公園 7.8		
面積	都市公園等 8.0		都市公園等 8.5		都市公園等 11.9		

【参考】平成30年度末現在の市町村（都市計画区域）別都市公園現況一覧表

市町村名	ヶ所数	面積(ha)	一人当り 都市公園面積 (㎡/人)	市町村名	ヶ所数	面積(ha)	一人当り 都市公園面積 (㎡/人)
名古屋市	1,487	1,619.13	6.99	田原市	30	43.03	7.17
豊橋市	400	378.92	10.08	愛西市	5	54.25	8.89
岡崎市	254	433.88	11.30	清須市	61	25.97	3.76
一宮市	138	208.22	5.48	北名古屋市	16	4.14	0.48
瀬戸市	65	106.12	8.29	弥富市	21	13.11	3.05
半田市	123	96.08	8.14	東郷町	33	21.61	4.91
春日井市	284	353.18	11.50	長久手市	51	187.79	30.79
豊川市	110	229.32	12.46	豊山町	2	4.47	2.79
津島市	12	29.52	4.69	大口町	14	8.98	3.74
碧南市	51	45.60	6.25	扶桑町	8	14.47	4.26
刈谷市	108	131.58	8.60	大治町	0	0	0.00
豊田市	185	465.06	11.48	蟹江町	18	14.45	3.91
安城市	103	99.91	5.31	飛島村	5	2.38	4.76
西尾市	63	84.18	4.89	阿久比町	18	6.49	2.32
蒲郡市	33	20.46	2.56	東浦町	58	38.66	7.89
犬山市	79	43.53	5.88	南知多町	11	3.61	2.58
常滑市	35	57.09	9.84	美浜町	20	11.65	5.07
江南市	15	39.30	4.01	武豊町	11	10.97	2.55
小牧市	111	114.78	7.70	幸田町	47	45.88	10.92
稲沢市	61	67.51	4.96	みよし市	81	90.28	14.80
新城市	12	72.04	22.51	あま市	53	12.66	1.46
東海市	73	125.69	11.12				
大府市	90	96.61	10.50				
知多市	74	73.69	8.77				
知立市	46	17.95	2.49				
尾張旭市	82	77.58	9.46				
高浜市	22	11.13	2.32				
岩倉市	18	5.01	1.04				
豊明市	53	64.39	9.33				
日進市	63	48.69	5.35	合計	4,813	5,831.00	7.79

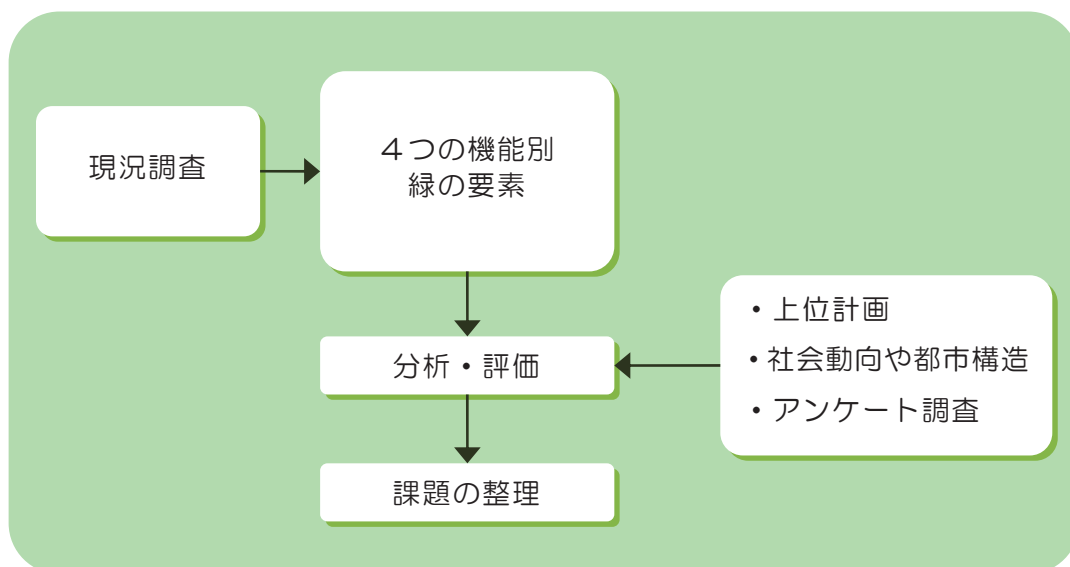
資料：愛知県公園緑地課HP

## 2-2 解析・評価にあたって

### 1. 解析・評価と課題の整理フロー

解析・評価にあたっては、現況調査の結果から、都市の緑が有する4つの機能別に当町の緑の要素を抽出し、機能ごとに解析・評価を行います。また、国や県の上位計画などや社会動向、都市構造、アンケート調査の結果を踏まえた視点からも当町の緑の方向性を導きだし、課題の整理を行います。

#### ■解析・評価と課題の整理のフロー



### 2. 解析・評価の視点

解析・評価は、以下の視点を踏まえ行います。

#### (1) 緑の有する4つの機能

緑が都市で果たす一般的かつ主要な機能として、環境保全、レクリエーション、防災、景観構成の4つがあげられます。

これらの機能は、これらの機能を持った緑がネットワークを形成することで効果が発揮されます。このため、これらの機能を持った緑地の配置は、個別の緑地のバランスの良い配置とネットワークの形成に着目します。

上記の評価・解析を行う際に、町全域の都市公園や緑地の量的・質的分布状況と、各地区の性格（人口密度、土地利用、地域地区など）を比較し、必要な緑の機能、緑地保全の必要度を考慮します。

---

また、各地区の土地利用、緑や緑地の分布、公共公益施設の分布、道路、河川、その他公共施設の緑化や緑地保全の状況、施設内の土地利用状況、緑化活動の現況などから、当該地区の各部分に必要な緑の機能、緑の量的・質的不足度、都市公園整備・緑地保全・緑化の必要度を含めた評価を行います。

#### (2) 上位計画などから導かれる方向性

当町の総合計画や都市計画マスタープランのほか、国が示す関連計画や愛知県が策定した愛知県広域緑地計画などの上位計画の視点に基づき、現況調査結果から抽出された緑の要素を、当町の緑に求められる方向性をまとめます。

#### (3) 社会動向や都市構造への対応

現況調査の社会的条件などから、人口予測、開発動向、土地区画整理事業などの基盤整備の進捗状況、少子高齢化社会の到来やレクリエーションの多様化、住民参加意向の高まりなどの当町の社会動向の変化や、都市構造、土地利用変化を予測し、これらに対応するために今後求められる緑の機能やその必要度・充足度、緑地保全の必要性をまとめます。

#### (4) 町民意向の反映

本計画の策定にあたって、平成 20 年度に実施した緑に関するアンケート調査の結果を踏まえ、町民が求めている当町の緑の方向性や必要な緑の機能などを分析・評価し、課題としてまとめ計画内容に反映させます。

## 2-3 緑が有する4つの機能からの解析・評価

緑が都市で果たす主要な機能として、①環境保全、②レクリエーション、③防災、④景観構成の4つがあげられます。これらの機能を持った緑がネットワークを形成することで、緑の機能が効果的に発揮されます。

ここでは現況調査を踏まえ、各機能別に以下に示す緑の機能を抽出・解析し、どのような緑が重要か把握します。(抽出結果は、次頁以降を参照)

### ■各機能の区分と評価項目

区 分	評 価 項 目
① 環境保全機能	<ul style="list-style-type: none"><li>・都市の骨格の形成</li><li>・優れた自然地</li><li>・優れた歴史的風土</li><li>・快適な生活環境</li><li>・優れた農林業地</li><li>・動植物の保全</li><li>・都市環境の維持・改善</li></ul>
② レクリエーション機能	<ul style="list-style-type: none"><li>・自然とのふれあいの場</li><li>・歴史的文化とのふれあいの場</li><li>・日常圏のレクリエーションの場</li><li>・広域圏のレクリエーションの場</li><li>・ネットワーク性の確保</li></ul>
③ 防災機能	<ul style="list-style-type: none"><li>・自然災害の危険防止</li><li>・人為的災害の危険防止</li><li>・避難体系</li></ul>
④ 景観構成機能	<ul style="list-style-type: none"><li>・都市を代表する景観</li><li>・優れた景観の眺望点</li><li>・ランドマークとなる場所</li><li>・景観構成のバランス</li><li>・都市景観の創出</li></ul>

注：抽出項目は、「新編緑の基本計画ハンドブック（平成19年4月発行）」を参考に設定

## 1. 環境保全機能

### (1) 環境保全機能の解析・評価

環境保全機能を有する緑地の解析・評価は、各項目に着目して緑地を抽出し、解析・評価します。また、評価の際は、「○(貴重な資源、財産として保全・活用)」、「△(今後、整備・育成が必要)」に区分し評価しました。

#### ■ 環境保全機能の解析・評価

視 点	解 析	評 価
都市の骨格の形成	日光川、善太川、蟹江川、福田川、佐屋川、大膳川は、伊勢湾から扇状に広がる町内に、おおむね等間隔に分布しており、都市の骨格の形成だけでなく、貴重な自然軸となっている。	○
	河川沿いに残る農地も同様に、都市の緑の骨格となっている。	○
優れた自然地	日光川と善太川の合流部である河口周辺の植生地は、多様な生物の生息地となっている。	○
優れた歴史的風土	水郷のまちとして発展した当町の源である河川と、信仰対象となってきた社寺、コミュニケーションの場となる祭りの場など優れた歴史的風土を有する緑として、蟹江川や佐屋川、社寺林がある。	○
快適な生活環境	市街地内に残る街区公園以上の面積を有する公園や緑地、道路緑化の線的な緑や社寺境内地に残る緑は、都市生活の良好な環境を形成する緑地空間となっている。	△
	蟹江川の東側の市街化区域には、住区基幹公園が不足している。	△
優れた農林業地	町南部や北部の農地は、拡大する市街化を抑制する効果を果たしている。	○
	河川と一体となって良好な都市の緑のオープンスペースとなっている。	○
動植物の保全	日光川と善太川の合流部に残る水辺植物生息地は、野鳥が多く生息している。	○
	蟹江インターチェンジ内の緑地は、野鳥の巣となっている。	○
都市環境の維持・改善	市街地内に残る河川、社寺林などの緑地は、保全や積極的な緑の創出の必要がある。	△







## ■ 環境保全機能からの評価まとめ

### ○ 蟹江川

蟹江川は水上交通の要衝として栄え、昔からの寺社が建ち並び、400年の歴史をもつ須成祭が行われているなど、人・文化・経済が発達してきた当町の優れた歴史風土を構成する河川です。市街地や集落内を流れる、貴重な緑のオープンスペースとして重要度が高く、散策ルートの整備などに合わせ可能な緑化方策の検討が必要です。

### ○ 佐屋川

佐屋川は都市の骨格を形成し、当町の貴重な自然軸となっており、環境保全システムを考える上で最も重要となる緑地として保全の要素が非常に高いといえます。また、源氏泉緑地付近、佐屋川下流沿いの散歩道付近は眺めがよく、静かにくつろげる住民の憩いの場として重要な緑地であるため、緑道や散策路、緑地拠点の整備に合わせた水辺の整備、積極的な緑化を進める必要があります。

### ○ 都市公園

都市公園などは、市街地内の快適な環境づくりに欠かせない緑の拠点を形成する緑地です。特に緑の骨格となる佐屋川沿いや市街地内とその周辺部で、積極的に整備を進める必要があります。

### ○ 農地

農業振興地域農用地区域は優れた農地であるとともに、市街地の無秩序な拡大の防止に役立ち、当町の都市形態を保つ上で重要な緑地です。将来の市街化を踏まえながら可能な限り保全を図る必要があります。

### ○ 社寺林や公共施設緑地

当町は、平坦な農地から発達した町であるため、大規模な樹林地がありません。このため、優れた歴史的風土を構成し、都市環境負荷の軽減に役立つ一団となって残る社寺林と学校などの公共施設緑地は、積極的な保全を図る必要があります。

### ○ 蟹江インターチェンジ内の緑地や日光川・善太川下流水辺

蟹江インターチェンジ内の緑地や日光川・善太川下流の水辺は、サギをはじめとした野鳥などの生物が生息する地であるため、今後保全していくことが望まれます。

## 2. レクリエーション機能

### (1) レクリエーション機能の解析

レクリエーション機能を有する緑地の解析・評価は、各項目に着目して緑地を抽出し、解析・評価します。評価の際は、「○(貴重な資源、財産として保全・活用)」、「△(今後、整備・育成が必要)」に区分し評価しました。

#### ■ レクリエーション機能の解析

視 点	解 析	評 価
自然とのふれあいの場	緑化されたオープンスペースとしての樹林地が少なく、河川とのふれあいは水面が主体となるが、日光川や蟹江川、福田川は河川改修が行われた有堤の河川であるため親水性に欠けている。	△
歴史的文化とのふれあいの場	蟹江川、佐屋川沿いの伝統・歴史・文化的意義を有する社寺や、伝統的な祭りなどが行われる河川など、水郷のまちにちなんだ施設や文化財を伴った緑地が多い。	○
日常圏のレクリエーションの場	新市街地では、住区基幹公園の整備が進められている。既成市街地では、日常の利用に供するオープンスペースが不足している。	△
	町のレクリエーション拠点の核となる地区公園(日光川ウォーターパーク)は、位置が町の西端であるため他のレクリエーション施設との一体的利用も踏まえ、ネットワークの形成が必要となっている。	○
広域圏のレクリエーションの場	広域レクリエーションの拠点となる日光川ウォーターパークは、周辺市町村からの利用も想定されている。	△
ネットワーク性の確保	南北の骨格を形成する蟹江川、善太川、佐屋川は、自然や歴史的資源性が高く、レクリエーション軸となり得るため、都市計画道路や水路を利用した東西軸のネットワーク確保が必要となっている。	○

## ■レクリエーション系統の評価図



## ■ レクリエーション機能からの評価まとめ

### ○佐屋川

佐屋川は当町の緑の軸であり、ネットワークを形成する上で重要な緑地です。また、釣りや散策、水辺のふれあいなど、自然とのふれあいを深める緑地として保全の必要性が高いといえます。

### ○蟹江川沿いの社寺など

蟹江川沿いの社寺境内地の緑は自然度も高く、地区住民にとって憩いの空間であるとともに、身近な遊び場としても利用される重要な緑地となっています。また、文化財を有した社寺や緑などは、当町の歴史的・文化とのふれあいの場として重要です。その他蟹江川下流部に「蟹江川水辺スポット」が整備されています。

### ○地区公園（日光川ウォーターパーク）

当町には、広域圏のレクリエーションの場となっている地区公園（日光川ウォーターパーク）があります。また、周辺には木曾三川公園（愛西市、海津市他）、海南こどもの国（弥富市）、戸田川緑地（名古屋市）などがあります。

### ○都市公園

都市公園は、日常圏のレクリエーションの場として重要です。現在の市街化区域内には、運動公園的な性格を有する近隣公園（学戸公園）と源氏泉緑地、街区公園 14 ヶ所の、合計 16 ヶ所が設置されているほか、市街化調整区域には、地区公園（日光川ウォーターパーク）、蟹江川南緑地の 2 ヶ所の都市公園が配置されています。また、それを補完する地域公園などが、各地に 29 ヶ所配置されています。近隣公園と町東部に街区公園が不足しています。

### ○鹿島神社文学苑、吉川英治句碑、蟹江城址

鹿島神社文学苑、吉川英治句碑、蟹江城址は、当町の歴史・文化をしのび空間として、周辺の良好な水辺景観と一体となっており、保全の必要性が高いといえます。

緑道はネットワークを確保するために、重要度が高い緑地です。しかし、現状は不足しています。

### ○蟹江町希望の丘広場

蟹江町希望の丘広場は、県立蟹江高等学校跡地に社会教育を目的として整備されました。当施設には、フットサルコートやバーベキュー場などが整備されており、日常圏のレクリエーションの場となっています。また、防災備蓄倉庫を完備しており、災害時の避難場所としても活用できます。

### 3. 防災機能

#### (1) 防災機能の解析

防災機能を有する緑地の解析・評価は、各項目に着目して緑地を抽出し、解析・評価します。また、評価の際は、「○(貴重な資源、財産として保全・活用)」、「△(今後、整備・育成が必要)」に区分しました。

#### ■ 防災機能の解析

視 点	解 析	評 価
自然災害の危険防止	過去の発生状況や地形などから、この地域では、水害と地震災害が予測される。	○
	水害が予想される市街地周辺には、遊水機能を有する大規模水田が多く水害を緩衝する効果が期待できる。	○
人為的災害の危険防止	人為的災害は、主に火災が考えられる。市街地内の河川、公園、公共施設、道路などの緑地を保全し、災害時の延焼抑制を高める必要がある。	○
	国道1号、西尾張中央道が発生源となる騒音や大気汚染があげられる。	○
避難体系	市街地内には、指定避難地を構成する緑地や災害時に市民の安全を守る近隣公園以上のオープンスペースなどが少ない。	△
	避難路の機能を有する緑地や焼け止まり効果のある都市計画道路の緑化などを有機的につなぎ、避難ルートを確保する必要がある。	△



## ■ 防災系統の評価図

市街地内  
 ・河川や農地は、火災延焼防止となる緑地です。  
 ・学校開放施設（小中学校）、公民館などは震災時に発生する都市災害や津波、台風などの風水害など人命を守る避難地として重要です。

遊水機能を有する水田  
 （農振農用地区域）



避難地（学戸公園、学戸小学校、源氏泉緑地）

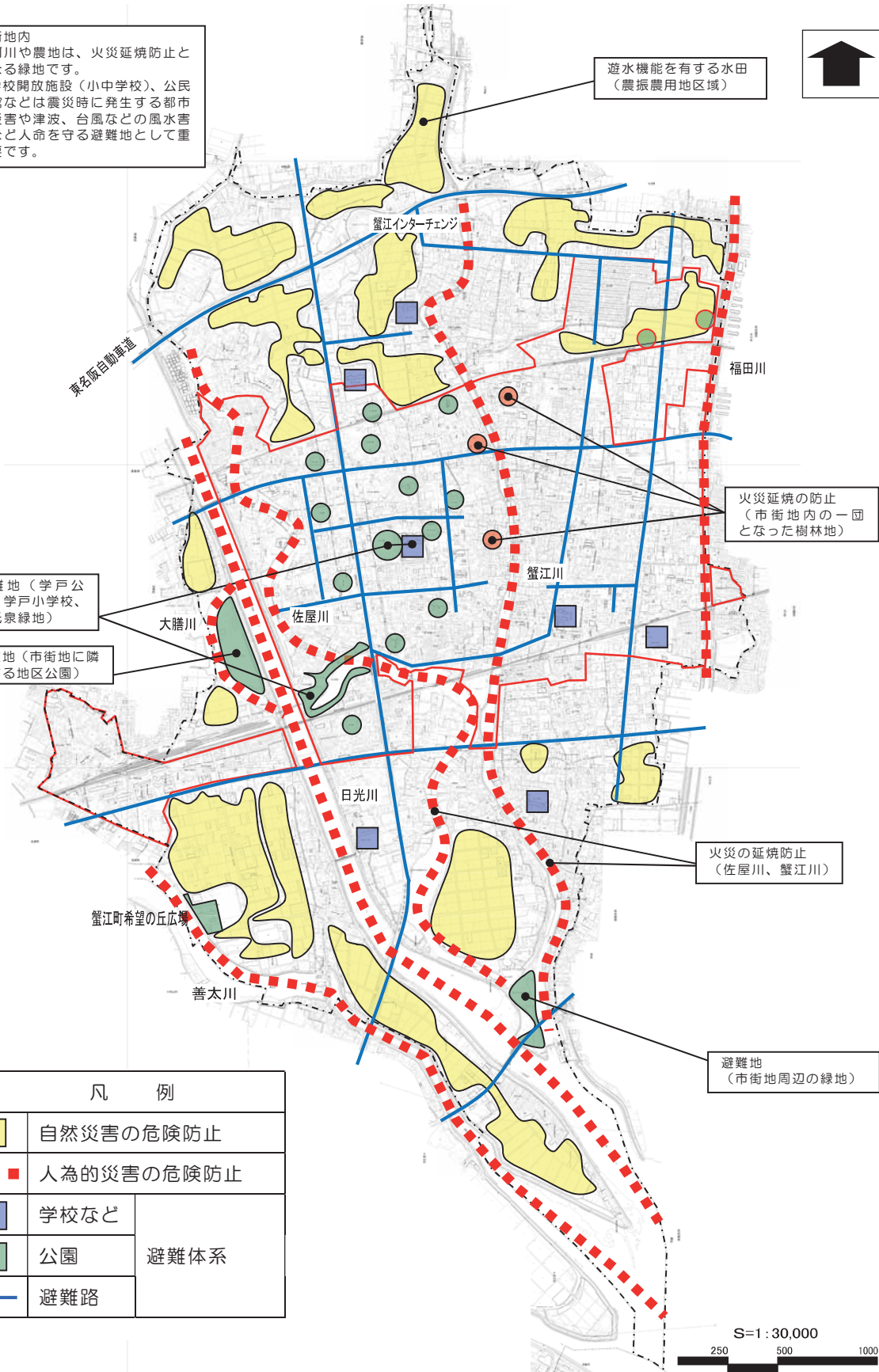
避難地（市街地に隣接する地区公園）

火災延焼の防止  
 （市街地内の一団となった樹林地）

火災の延焼防止  
 （佐屋川、蟹江川）

避難地  
 （市街地周辺の緑地）

凡 例		
	自然災害の危険防止	
	人為的災害の危険防止	
	学校など	避難体系
	公園	
	避難路	



## ■ 防災機能からの評価まとめ

### ○小中学校

当町では、小中学校が広域避難場所に指定されており非常に重要です。これらの広域避難場所は、避難地図によると須西小学校区の東部、蟹江小学校区の北部などでの不足がみられます。

### ○都市公園やグラウンドなどのオープンスペース

都市公園やグラウンドなどのオープンスペースは、避難地としての機能を有しており、特に地震などによる都市火災の発生時には、延焼を防止する機能も有していることから保全の重要度は高いといえます。現況の都市公園は、学戸公園など市街化区域での配置は 16 ヶ所であり、市街地東部の不足地域では、都市公園やグラウンドなどのオープンスペースの充実を図る必要があります。

### ○市街地内農地や周辺の農地

市街地内農地や周辺の農地は、水害発生時における一時的貯留機能を有しており、保全の重要度が高いといえます。

### ○都市計画道路

都市計画道路は避難体系を構成する要素として重要であるとともに、火災の延焼を防止する機能を有することから、今後も緑化の整備を推進する必要があります。また、緑地の配置は、避難路、緊急輸送道路の機能を損なうことのない配置を検討していきます。

### ○蟹江町希望の丘広場

蟹江町希望の丘広場は、県立蟹江高等学校跡地に防災を兼ね備えた施設として新たに整備されました。当施設は避難場所に指定されており、管理棟の 4 階は、災害時に備え防災備蓄倉庫として利用されています。



## 4. 景観構成機能

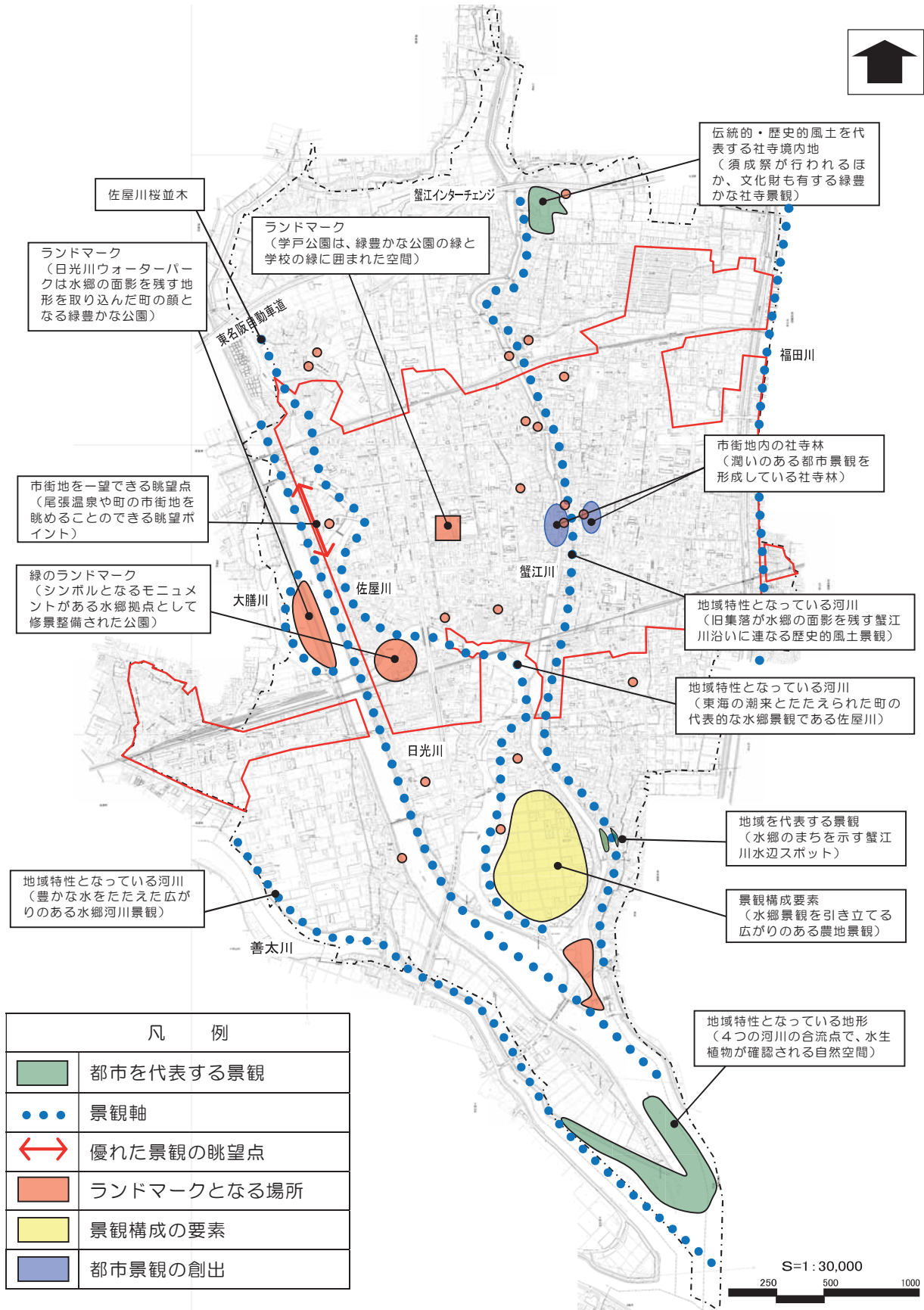
### (1) 景観構成機能の解析

景観構成機能を有する緑地の解析・評価は、各項目に着目して緑地を抽出し、解析・評価します。また、評価の際は、「○(貴重な資源、財産として保全・活用)」、「△(今後、整備・育成が必要)」に区分しました。

#### ■ 景観構成機能の解析

視 点	解 析	評 価
都市を代表する景観	当町の景観の特徴として水郷景観形成の軸となる、旧形態を残す河川や水田などがあげられる。	○
	伝統的・歴史的風土を代表する社寺境内地を多く残している。	○
優れた景観の眺望点	日光川の堤防は、市街地を一望できる眺望点としてあげられる。	○
ランドマークとなる場所	日光川ウォーターパークや学戸公園などの市街地周辺の公園や社寺林などは、まとまりのある緑地としてランドマークとなる場所である。	○
景観構成のバランス	良好な水郷景観を構成する河川と一体となった田園風景は、景観に奥行や広がりを持たせる要素となる。	○
都市景観の創出	河川沿いの社寺林や市街地の緑地は、水辺と一体となった緑の核・軸づくりを行う必要がある。	△

## ■ 景観構成系統の評価図



---

## ■ 景観構成機能からの評価まとめ

### ○蟹江川

蟹江川は、コンクリート堤防となっていますが、河川沿いの町並みと一体となつて、良好な景観要素となっています。また、水郷のまちを表す蟹江川水辺スポットが整備されています。

### ○佐屋川

佐屋川は、水郷のまち蟹江をイメージさせる形態を残した河川であり、後世にそのまま継承するためにも、保全の重要度が高いといえます。また、散策やレクリエーションの場として、積極的な緑化や整備を進めていくことで、町の景観軸となる重要な緑地です。

### ○佐屋川沿いの一団の農地

佐屋川などの河川沿いに広がる一団の農地は、全体として水郷のまちを感じさせるため、景観的にみても保全が望まれる緑地です。

### ○街路樹や緑道

街路樹や緑道は、潤いのある都市景観構成する要素として、積極的に緑化・整備を推進する事が望めます。

### ○文化財や伝統・歴史を有する社寺林など

まとまった緑量のある社寺林などは、景観的な評価の高い緑地として、保全が望まれます。

## 5. 各系統別評価のまとめと課題

環境保全、レクリエーション、防災、景観構成の4つの機能での解析・評価をもとに当町の都市形成における緑地のあり方を総合的に解析・評価します。

### ■系統別評価まとめ

対象となる緑地	緑地機能				備考
	環境保全	レクリエーション	防災	景観構成	
日光川・善太川・蟹江川 福田川・佐屋川・大膳川	○	○	○	○	
その他の河川、水路	○		○		
河口水辺植生地	○	○		○	
農業振興地域農用地区域	○		○		
河川と一体となって広がりのある 市街化調整区域の農地	○		○	○	
市街化内農地や周辺の農地	○		○		
伝統的・歴史的風土を代表する社 寺林、その他社寺林	○	○	○	○	
都市公園	○	○	○	○	
地域公園など		○	○		ゲートボール場含む
学校(小中学校)		○	○		
その他のグラウンド		○	○		
公共公益施設と周辺の緑地	○			○	
緑道		○	○	○	
街路樹、都市計画道路、避難路な ど	○	○	○	○	
蟹江インターチェンジ内の緑地	○			○	
その他の民間レクリエーション施設		○			
蟹江町希望の丘広場		○	○		

### ■ 環境保全系統からの課題

- 蟹江川の歴史軸と佐屋川の自然軸の連携による町域のネットワークづくり
- 佐屋川の有効活用と公園の連携
- 市街地の無秩序な拡大を防止する優良農地の保全
- 都市公園の積極的な配置
- 社寺林の積極的な保全
- 蟹江インターチェンジ内の緑地や日光川・善太川下流の野鳥などの生息地の保全

### ■ レクリエーション系統からの課題

- 佐屋川は緑のネットワーク形成上、重要な緑の軸として保全
- 近隣公園と町東部の街区公園の不足
- 歴史的文化とのふれあいの場となる蟹江川沿いの社寺境内地の緑の保全
- 佐屋川下流沿いの散歩道など良好な水辺景観との一体的保全
- 緑道によるネットワーク整備
- 広域的なレクリエーション施設となる地区公園の整備推進
- レクリエーション施設としての蟹江町希望の丘広場の利用促進

### ■ 防災系統からの課題

- 須西小学校区の東部、蟹江小学校区の北部などで広域避難場所の不足
- 市街地東部に、都市公園やグラウンドなどの充実が必要
- 市街地内の農地や周辺の農地を一時的貯留機能を有する重要な緑として保全
- 都市計画道路を避難体系の構成要素として緑化を推進
- 避難場所としての蟹江町希望の丘広場の利用促進

### ■ 景観構成系統からの課題

- 河川沿いの町並みと一体となった蟹江川の良い景観保全
- 水郷のまち蟹江をイメージさせる佐屋川の景観保全
- 佐屋川などの河川沿いに広がる一団の農地景観の保全
- 街路樹や緑道の積極的な緑化と整備
- まとまった緑量のある社寺林などの保全

## 2-4 上位計画からの解析・評価

「あいち生物多様性戦略 2020」、「蟹江町都市計画マスタープラン」の内容で位置づけられる当町の緑の課題は以下のとおりです。

### ■ 「あいち生物多様性戦略 2020」（平成 25 年 3 月）

#### 【基本目標】：「人と自然が共生するあいち」の実現

本県では「人と自然が共生するあいち」すなわち様々な立場の人々が生物多様性への意識を高め、そのコラボレーションによって生き物が住む場所が確保され本来その場所にいるべき野生の生き物と人がともに生きていける愛知を目指す。

#### 【長期目標 2050】：自然と共生する世界の実現

#### 【短期目標 2020】：生物多様性の損失を止めるための具体的な行動の展開

2020 年までに生物多様性の損失を止めるための効果的で具体的な行動が実践され、その効果が確認できている状態となっていることを目指す。

#### 【あいち方式】

県民や事業者、NPO、行政といった地域の多様な主体が共通の目標のもとにコラボレーションしながら、効果的な場所で生物の生息生育空間の保全・取組を行うことにより生物多様性への意識を高め、人と人とのつながりを育みながら生態系ネットワークの形成を進め「人と自然が共生するあいち」を実現する仕組み。

#### 【生物多様性ポテンシャルマップ】

「生態系ネットワークの形成」を進めるために、多様な主体が目標を共有するためのツールとして作成された「生物多様性ポテンシャルマップ」が公表されています。「生物多様性ポテンシャルマップ」では、指標種が生息されている場所のほか、森や草地、水辺などの分布や広さといった環境条件から、指標種のすみかとして適している場所を予測し、図化しています。

## ■ 「蟹江町都市計画マスタープラン」(令和2年)

### 【人々が健康に暮らせるコンパクトな都市づくり】

- 駅を中心に商業、医療、福祉、子育て等の生活サービス施設が集積
- 自家用車に過度に頼らない移動環境や生活サービス施設が整った範囲で、まちなかの居住地を形成
- 日常の行動に配慮した道路ネットワークの構築

### 【地域の住民と協力した安心快適の地域づくり】

- 道路、公園、河川、下水道等の整備や住民と協力した維持管理
- 緊急時の安全を確保するための防災活動拠点、緊急輸送道路、避難場所の整備・確保
- 地域の防災組織の充実と防災活動の活発化

### 【広域的な交流・連携による魅力的な産業づくり】

- 水を中心とした豊かな自然環境や古くからの社寺・町並み、温泉などをいかした、魅力的な景観形成と観光産業の振興
- 蟹江インターチェンジ周辺など広域的な交通利便性の高い地域に物流業・製造業などの産業が集積

### 【水・緑と共生した街にも地球にも優しい環境づくり】

- 住環境に潤いやゆとりをもたらす河川や農地などは、身近に触れ合える自然として保全・維持管理
- 身のまわりの環境や地球環境の保全するための住民協力を推進
- 自家用車から徒歩や自転車、公共交通への移動手手段の転換



### 【課題】

- 人と当町の自然との共生
  - ・ 生態系ネットワークの明確化
  - ・ 生物多様性ポテンシャルマップとの整合
- 当町の防災性向上
  - ・ 市街地で公園が未整備のエリアの住区基幹公園の整備
- 当町の特性（歴史・水・水郷・緑）を活かしたまちづくり
- 多様な主体と共に連携・協働し、活用した公園の維持・管理
- 水と緑のネットワーク（緑道など）の整備推進



## 2-5 社会動向や都市構造からの解析・評価

現況調査の社会的条件調査などから抽出される社会動向や都市構造からのまとめや課題は以下のとおりです。

### ■ 社会動向や将来都市構造からのまとめ

#### ① 緑をめぐる社会動向

- 都市化の進展、少子高齢化の進展に伴い、自然とのふれあい志向、健康づくりへの関心、コミュニティ意識の高まりなど余暇需要が変化し、緑の持つ多様な機能の活用による経済社会や国民の余暇需要の変化に対応した緑豊かで質の高い余暇空間の確保が必要となっています。
- 身近な自然とふれあえる場所が求められており、都市公園の不足、佐屋川、蟹江川を親しむ場の整備が不十分となっています。
- 蟹江町の地域特性を生かした質の高い空間づくりが求められています。
- CO2削減の取組や愛知県でのCOP10の開催、そこから生まれた生物多様性問題など、地球規模での環境問題への取組が身近な問題となっています。

#### ② 都市構造と将来像

- 農業のまちから住宅都市への移行もみられ、防災面の緑の役割が増大している。まちづくりの核となる公園の整備が必要です。(東部地域の不足が顕著)
- 水郷のまちの実現の役割を果たす日光川、善太川、蟹江川、福田川、佐屋川、大膳川を大切にする必要があります。

#### ③ 街の発展方向と緑

- 駅周辺などの面的な開発事業(土地区画整理事業、開発許可など)の周辺環境との調和
- 当町の緑の特徴である風格ある社寺林や屋敷林の保全
- ボランティアなどの協働のまちづくりに向けての活動の高まりがみられます。



#### 【課題】

- 緑豊かで質の高い余暇空間の確保
- 身近な自然とふれあえる場所の整備や水辺空間の保全
- 防災機能を有する公園整備
- 当町の緑の特性の活用や周辺環境との調和
- 行政と町民による協働のまちづくりの推進



## 2-6 課題の整理

現況調査結果を踏まえ、系統毎や社会動向等からの課題を導出し、それらを取り込んだ全体課題について整理しました。

### 上位関連計画など関連計画の整理

#### 1. 新たなステージに向けた緑とオープンスペース政策の展開について (平成 28 年 5 月)国土交通省

【新たな時代の都市をつくる緑とオープンスペースの基本的考え方】  
・ストック効果をより高める  
・民との連携を加速する  
・都市公園を一層柔軟に使いこなす

#### 2. 都市緑地法等の一部を改正する法律 (平成 29 年 6 月)国土交通省

・緑の基本計画の内容に、公園の「管理」方針、都市農地の保全を新たに追加し、都市公園の老朽化対策などの計画的な管理、都市農地の保全を推進  
・都市公園の再整備、活性化に向けて Park-PFI 制度の推進

#### 3. 愛知県広域緑地計画 愛知県 豊かな暮らしを支える あいちの緑づくり ～緑の質を高め 多様な機能を活用～

【環境・安全 いのちを守る緑】  
・緑の恩恵を享受し、自然と調和し災害にも強い緑の都市づくり

【活力 交流を生み出す緑】  
・多様な主体との連携と地域の特性をいかす緑づくり

【生活 暮らしの質を高める緑】  
・良好な生活環境と QOL (生活の質) を高める緑の空間づくり

【活用】  
・上記の 3 つの緑 (「いのちを守る緑」「交流を生み出す緑」「暮らしの質を高める緑」) の機能を最大限に高めるために、県、市町村、NPO、県民、民間事業者などが適切な役割分担のもと、緑を効果的に『活用』することが重要である。

#### 4. あいち生物多様性戦略 2020 (平成 25 年 3 月)

・生物多様性への意識を高め、人と人とのつながりを育みながら生態系ネットワークの形式を進め、「人と自然が共生するあいち」の実現に取り組んでいます。

#### 5. その他関連計画

・蟹江川かわまちづくり計画 (国土交通省河川部：計画登録)  
河川とそれに繋がる町を活性化するため、河川空間と町空間が融合した良好な空間形成するために、愛知県が景観に配慮した護岸整備などを実施。

・都市計画マスタープラン  
都市づくりの目標の 1 つとして、「水・緑と共生した街にも地球にもやさしい環境づくり」を掲げている。

### 現況調査からの緑の状況

#### 1. 自然条件について

・町内のほぼ全域が海抜ゼロメートル地帯に位置している  
・農地面積が大きく、町内の貴重な緑といえる  
・水際に繁殖するヨシなどが、生物の良好な住処となっている  
・6 本の河川が町内を流れており、特に佐屋川、大膳川は水面との距離が近く、特徴的な線形を有するなど、水郷のまちの象徴となっている

#### 2. 緑地・緑化の現況について

・町内の貴重な民間施設緑地として自然植生の残る社寺林が大半を占めている  
・市街地東部地域に街区公園が不足している  
・町域全体で、近隣公園が不足している

#### 3. その他の緑について

・都市計画道路の一部は街路樹で緑化されている  
・都市公園の管理は町が行い、地域公園の管理は基本的には町内会が行っている  
・佐屋川沿いには水面とレクリエーション施設が一体となった独自の景観がある  
・源氏泉緑地や図書館周辺は、水辺と公共空間が一体となった良好な景観を有している  
・小中学生を対象とした緑化教育活動が実施されている  
・住民主体の緑化や環境に関わる活動が継続的に実施されている  
・須西小学校区の東部、蟹江小学校区の北部などで広域避難場所が不足している

### アンケート調査からの住民ニーズ

#### 1. 今後、必要となる公園の使い方について

・小さい子どもが遊びやすい公園のニーズがある  
・健康づくりができる公園のニーズがある  
・水辺を歩けるなど水に親しめる公園のニーズがある

#### 2. 公園の維持管理や整備の方針について

・遊具やベンチなどの老朽化した施設更新のニーズが高い  
・除草、清掃などの日常的な管理や、見通しの確保などの防犯対策のための樹木の適切な伐採に関するニーズがある

#### 3. 公園の改修時に重視すべきこと

・公園の規模を問わず、施設の部分改修を重視すべきという意見がある。ただし、小さな公園に関しては全体的な改修も視野に入れるべきという意見がある

#### 4. 今後のまちの緑について

・保全を中心に考え、「質」を高めていくべき

#### 5. 暮らしの中での花や緑に関する活動について

・緑に関する募金活動、寄付などへの参加意欲がある  
・川などの水辺をきれいにする活動への参加意欲がある  
・自然環境に関するイベントや講習会への参加意欲がある

#### 6. 緑豊かなまちづくりに必要な施策について

・ブロック塀を生垣に変えるための費用助成のニーズが高い  
・大きな工場や商業施設、事業所の緑化協力の必要性を感じている  
・町民参加による公園や水辺の保全整備や運営管理の必要性を感じている

#### 7. これからの蟹江のまちづくりについて

・行政が住民の要望を把握しながら、行政が主体となってまちづくりを進める、または住民と行政が話し合い、役割分担をしながら協働で取り組むべきと考えている

### 系統毎の課題

#### ■環境保全系統

・蟹江川の歴史軸と佐屋川の自然軸の連携による町域のネットワークづくり  
・佐屋川の有効活用と公園の連携  
・市街地の無秩序な拡大を防止する優良農地の保全  
・都市公園の積極的な配置  
・社寺林の積極的な保全  
・蟹江インターチェンジ内の緑地や日光川・善太川下流の野鳥などの生息地の保全

#### ■レクリエーション系統

・佐屋川は緑のネットワーク形成上、重要な緑の軸として保全  
・近隣公園と町東部の街区公園の不足  
・歴史的な文化とのふれあいの場となる蟹江川沿いの社寺境内地の緑の保全  
・佐屋川下流沿いの散歩道など良好な水辺景観との一体的保全  
・緑道によるネットワーク整備  
・広域的なレクリエーション施設となる地区公園の整備推進  
・レクリエーション施設としての蟹江町希望の丘広場の利用推進

#### ■防災系統

・須西小学校区の東部、蟹江小学校区の北部などで広域避難場所の不足  
・市街地東部に、都市公園やグラウンドなどの充実が必要  
・市街地内の農地や周辺の農地を一時的貯留機能を有する重要な緑として保全  
・都市計画道路を避難体系の構成要素として緑化を推進  
・避難場所としての蟹江町希望の丘広場の利用促進

#### ■景観構成系統

・河川沿いの町並みと一体となった蟹江川の良好な景観保全  
・水郷のまち蟹江をイメージさせる佐屋川の景観保全  
・佐屋川などの河川沿いに広がる一団の農地景観の保全  
・街路樹や緑道の積極的な緑化と整備  
・まとまった緑量のある社寺林などの保全

### 上位計画、社会動向や都市構造からの課題

#### 1. 上位計画の課題

○人と蟹江町の自然との共生  
・生態系ネットワークの明確化 (尾張西部生態系ネットワーク方針との整合)  
・生物多様性ポテンシャルマップとの整合  
○蟹江町の防災性向上  
・市街地で公園が未整備のエリアの住区基幹公園の整備  
○蟹江町の特長 (歴史・水・水郷・緑) をいかしたまちづくり  
○多様な主体と共に連携・協働し、活用した公園の維持・管理  
○水と緑のネットワーク (緑道など) の整備推進

#### 2. 社会動向や都市構造の課題

○緑豊かで質の高い余暇空間の確保  
○身近な自然とふれあえる場所の整備や水辺空間の保全  
○防災機能を有する公園整備  
○当町の緑の特性の活用や周辺環境との調和  
○行政と町民の協働のまちづくりの推進

### 緑の基本計画における全体課題

#### ①自然環境の保全と農地・社寺林などの保全活用

・社寺林を中心とした民間施設緑地の適正な維持保全に関する取組が必要  
・保全すべき市街化調整区域の農地に対する取組が必要  
・「人と自然が共生するあいち」実現に向けての取組が必要  
・生物の生息地となる水辺などの保全が必要

#### ②緑の持つ防災・減災機能の活用

・オープンスペースの確保による避難場所の確保が必要  
・貯留機能を有する農地などの適正な保全が必要  
・計画的な道路や街路樹の整備による安全な避難動線の確保が必要

#### ③緑の多様な機能を発揮する水と緑のネットワークの保全や形成・質の向上

・蟹江川、佐屋川などの「緑の軸 (河川)」を意識した骨格形成が必要  
・公園、社寺林などの拠点的な緑をつなぐ歩行者ネットワークの形成が必要

#### ④緑・水辺をいかした蟹江町の魅力づくり・活性化

・佐屋川を中心とした緑化重点地区の川と緑が一体となった都市景観、都市環境をより向上させるハード・ソフト両面の取組が必要  
・かわまちづくり計画など、他計画と連携した河川水路の魅力的な景観整備が必要

#### ⑤町民の暮らしを支え高める公園緑地などの適切な配置とストックの保全活用

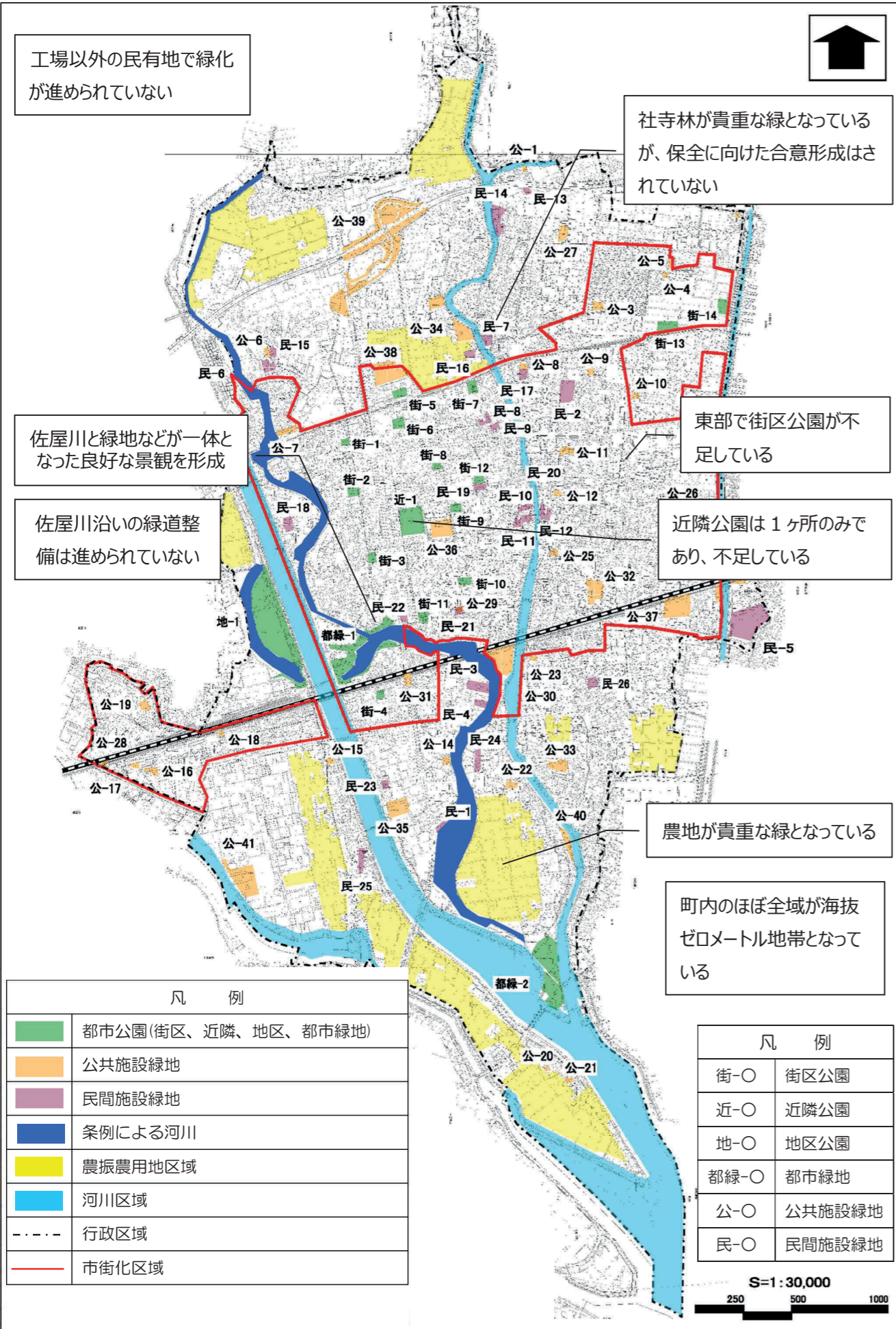
・多様なニーズに対応する公園緑地の適切な配置と、メンテナンス・再整備が必要  
・緑地の維持・保全、町民との協働に向けた活動への支援・啓発が必要  
・住宅地の生垣整備など、民間施設の緑化支援施策の推進が必要  
・市街地内の空き家・空き地など、オープンスペースの有効活用についての検討が必要

#### ⑥官民連携による緑地の整備と適正な運営・管理

・民間事業者や土地所有者などを含む民間と行政の「広義の官民連携」による、適正な緑地の整備や管理運営体制の構築が必要



■緑地現況の課題



■緑被現況の課題

